

令和3年度 事業報告書

社会福祉法人 まほろば福祉会

目 次

- 法 人 本 部 …………… 1
- ワークステーションやじろべえ …………… 3
- ほっとすてーしょん 翼 …………… 7
- さ くら さ くら …………… 11
- 天 領 の 杜 ・ ひ ら り …………… 16
- 相 談 サ ポ ー ト ま ほ ろ ば …………… 19
- 地 域 支 援 局 …………… 21

令和 3 年度法人本部事業報告書（案）

I 事業概要

- 1 6月に第16期役員（理事・監事）、第12期評議員の改選を行った。
役員は、山下ヤス子理事、石山倬也理事が退任し、山下幸司理事、横山誠一郎理事が就任した。
評議員は、長友秀隆評議員が退任し、坂本奈美評議員が就任した。
- 2 シェアハウスひまわり新築工事に伴う入札会を実施した。
- 3 法人創立30周年を記念して、記念誌の発行、30周年タオルを作成した。
- 4 理事会5回、評議員会4回開催した。（書面審議も含む）

II 事業の状況

1 翼建替え工事及び綾外科跡地の進捗状況

(1) 翼建替え工事

別当設計事務所と協議を重ね、建物平面図は完成した。現在、設計事務所が各関係機関と協議を進めており、整い次第、現場説明会及び入札会を実施予定。令和4年度中の着工で事業を進めている。また、工事車両入口の一部の土地を購入し、敷地一体が法人所有となった。

(2) 綾外科跡地

先方の相続登記等が完了した連絡を受け、売買契約を締結し、所有権移転登記を行い基本財産に計上した。12月には天領の杜居宅介護の事務所を移転した。今後は、通所系サービスの移転等、建物の有効活用に向け、東諸拠点事業推進室で検討していく。

2 令和3年度報酬改定

(1) 令和3年4月に介護保険、障害福祉共に報酬改定が行われた。

① 感染症や災害への対応力の強化

感染症や災害への対応力の強化が示され、その取り組みを基本報酬で評価する仕組みが新たに追加された。これにより、感染症の発生及びまん延の防止等に関する取組、業務継続に向けた計画等の策定や研修・訓練等の実施が義務化された。3年間の経過措置が設けられているが、早急に対応していきたい。

② 障害者虐待防止の更なる推進及び身体拘束等の適正化

これまでの努力義務から1年間の準備期間を終え、令和4年度より義務化される。主な取り組みとして職員研修や委員会の設置及び委員会での検討、検討結果の職員への周知等があり、これらを未実施の場合報酬が減算対象となる。既に、各事業所で取り組みを行ってはいるが、今後も情報を共有し取り組んでいきたい。

3 放課後等デイサービス

- (1) Be Fine での事業所開所で準備を進めていたが、宮崎市市街化調整区域内の立地に関する審査基準により、現段階では開所できない状況となった。今後も、宮崎市開発審査課、障がい福祉課との協議を行い事業開始に向けて取り組んでいくが、同時にやじろべえや別の場所での早期事業所指定を検討していく。

4 マニュアル作成

- (1) 事業所毎に作成されていたマニュアルを法人で統一する取り組みを行った。
- ① 車両関係マニュアル
各事業所の安全運転管理者 4 人で協議・検討を重ね、公用車運転マニュアル、交通事故対応マニュアルを作成した。
 - ② 危機管理マニュアル
各事業所の主幹、係長でメンバーを構成し、インシデントレポート・事故報告書実施要綱を作成した。今後も、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル等を検討し作成していく。
 - ③ 職務分掌表
管理者会において、法人で統一した職務分掌表を作成した。

5 寄附金収入

- 山下 志穂 様 (山下ヤス子様)
- 細山田祥一 様
- 田邊 好子 様 (田邊えりこ様)

6 正職員登用

- (1) 新卒採用者 1 名、契約職員からの登用 1 名、中途採用 3 名の 5 名を正職員として採用した。(管理栄養士、生活支援員、看護師、理学療法士)

III 職員研修関係

- 新人職員研修
- 安全運転講習「事故防止のための心がけ」
- 人権研修「人権とは何かを考える」
- 虐待防止研修
- 国際福祉機器展

IV 行事関係

- 永年勤続表彰 (10 名)
- 秋の花火ショー

V 決算状況 (別添決算書参照)

令和3年度 やじろべえ事業報告書(案)

I. 事業の概要

1. 平成3年7月の開設以来、障がいのある方の“就労支援”に特化したサービスを提供してきたが、「障がいのある方の『働く・くらす』をサポートする」体制を構築するために、令和元年度から3ヶ年計画で事業体系を見直した。

その一つとして、令和3年2月に2棟目のシェアハウスをオープンさせたが、8月に清武せいりゅう支援学校高等部3年生を受け入れ、早朝や夕方の通学支援を職員が連携して行い3月には無事卒業を迎えることができた。また、10月には宮崎市と協議を進めていた就労継続支援B型事業の定員を34人から40人に増員することができ、それに合わせて休止していた就労移行支援事業(定員6人)を廃止した。

2. 利用状況については、長期入院による退所、入所施設等への転籍、コロナ不安による退所など前期末から5人減の44人となった。

また、コロナ禍における利用控えや1月の新型コロナウイルス感染症陽性者の発生により事業を休止したことで給付費収入が大きく減少した。

このコロナ陽性者発生に伴う事業の休止は、保健所より「消毒期間などを考慮し、事業所の判断で」とのことであったため、消毒や利用者及び職員1~2回のPCR検査の実施期間、そして何より利用者やご家族への感染を防ぐことを第一に考え1週間(濃厚接触者については14日間)と判断したが、休止したことで仕事を休まなければならなかったご家族がいたことなどを含め検討の余地がある。

3. 就労支援においては、工賃アップを最大の目標に掲げ利用者・職員が一体となって取り組んできたが、コロナ禍で積極的な営業活動ができず、売り上げも伸びなかった。このような中、新たな取り組みとしてまほろば福祉会のホームページ作成・更新作業やお中元やお歳暮時期に合わせた季節商品販売への取り組みを行った。このまほろば福祉会ホームページは、各施設・事業所からリアルタイムに情報発信ができるため、やじろべえにおいては利用者・家族等へ施設の状況(新型コロナウイルス感染症の情報提供及び注意喚起、台風接近時の施設の対応、月間予定及び献立内容)などの発信や、一般印刷、アパレルプリント、軽作業など受注促進の広報活動も行った。

4. 設備整備関係では、老朽化してきたオフセット印刷機や送迎車両などの入れ替え時期を迎えた。印刷機にいたっては30年以上経過しているため、不具合のある部品を変えるだけで30万円以上かかるとの見積もりが出されている。良質で高年式の中古機を探し、買い替えを検討したい。

II. 事業の状況

1. 就労継続支援B型事業

(1) 事業実績

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
利用者定員	34人	34人	40人

登録利用者数	56人	55人	49人	
開所日数	265日	261日	259日	
一日平均利用者数	39.6人	39.8人	36.2人	
利用者延べ人数	10,493人	10,401人	9,382人	
介護給付費収入(利用者負担含む)	84,078,330円	82,873,106円	75,828,420円	
平均工賃月額	21,971円	20,528円	21,826円	
工賃支給総額	12,769,545円	12,234,920円	11,677,170円	
工賃支給対象者数	586人	596人	535人	
就労支援収入	印刷	24,030,172円	22,815,809円	23,781,736円
	請負	552,953円	1,458,946円	3,553,575円

(2) 事業成果と課題

- ① 昨年度と比較して一日平均利用者数が約3人減、登録利用者数も5人減となっている。これに比例して給付費収入も7,000,000円の減収(コロナ陽性者発生に伴う休止期間分は約1,800,000円)となった。

入退所の内訳は、長期入院による退所1名、生活介護事業所や入所施設への転籍3名、新型コロナウイルス感染症への不安による退所1名、精神的不安による退所が1名、新規利用者が1名となっている。事業の安定化を図る観点からも相談支援事業所や宮崎市社会福祉課等への広報活動を行い、新規利用者の獲得に努めることが喫緊の課題である。

- ② 平均工賃については21,826円となり、ホームページ作成・更新業務への取り組みや季節商品の販売により昨年度から約1,300円上げることができた。

就労支援収入は昨年と同様にコロナ禍の影響が大きく、売上げが低調であった。また、1月以降は原材料等の高騰も大きくすべてを顧客へ転嫁することが難しいため、経費節減やミスの削減への取り組みが重要となってくる。

就労支援科目は一般印刷・アパレル印刷・軽作業の3部門であるが、軽作業についてはより収益率の高い新たな請負作業の情報収集に努め、収益率の高い一般印刷・アパレル印刷についてはコロナ禍でもできる営業体制の確立と季節商品販売の拡大を全職員が一丸となり取り組む。

- ③ 「東国原知事メモ帳」、「トイレで神話タオル(古事記編纂1300年)」に続くオリジナル製品の第三弾として、「神楽Tシャツ・ファイルバッグ」の製造販売を「みやざき物産館KONNE」で始めた。ホームページやフェイスブック、インスタグラムなどを活用しての広報や高千穂町内の土産物店、道の駅等への営業を行っていく。

2. 居宅介護事業・外出介護事業・シェアハウス(Yumeハウス)

(1) 事業実績

① 居宅介護事業

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
登録利用者数	6人	7人	9人
一日平均利用者数	4.7人	5.3人	6.9人

利用者延べ人数	719人	1,933人	2,525人
介護給付費収入(利用者負担含む)	6,606,150円	20,595,510円	37,291,400円

② 外出介護事業

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
登録利用者数	—	5人	5人
利用者延べ人数	—	29人	24人
受託事業収入	—	230,730円	248,370円

(2) 事業成果と課題

- ① Yumeハウスやじろべえ2号館の設置に伴い、登録利用者数、一日平均利用者数、利用者延べ人数、給付費収入とも伸びているが、Yumeハウスやじろべえ1号館が一室空きの状況が続いている。事前調査で入居を希望されていた方へのアプローチを再度行うとともに、相談支援事業所への広報活動も同時に進めていく。
- ② 8月から12月にかけて、職員の労災に伴う休暇や入院が相次ぎヘルパー不足が生じたが、ワークステーションやじろべえの職員を週2～3回夜勤として派遣させることで補うことができた。人手不足は深刻な問題であるため、離職を防ぐためにもストレスがたまらない働きやすい環境を実現させたい。
- ③ Yumeハウスやじろべえ1号館の2階で生活している利用者がコロナワクチン(3回目)接種後、長期間体調不良をきたしたため、平屋建てである2号館に急遽引越しを行った。症状は改善しているが、2階での生活には不安があるため2号館での生活を継続している。

Ⅲ. 感染症対策

1. インフルエンザワクチン接種については、希望する利用者・職員に対し10月に実施(嘱託医)し、新型コロナウイルスワクチン接種については、希望する利用者・職員に令和3年5月から令和4年3月にかけて3回実施(嘱託医及びかかりつけ医)した。
※ 新型コロナウイルスワクチン3回接種率…利用者98%、職員95%
2. 1月に職員1名が新型コロナウイルス感染症に罹患した。日頃から感染症対策を行ってきたこともあり、他の利用者・職員への感染は防ぐことができた。
3. 新型コロナ陽性者の発生を受けて、感染症対策、感染症対策チェックリスト、新型コロナウイルス感染症施設対応フローチャートの見直しを行った。

Ⅳ. 非常災害対策

1. 地域住民や地元消防団等の協力が得られやすいよう自治会に加入し、近隣住民とも良好な関係を築いてきた。
2. 総合防災訓練や火災、地震、水害による避難訓練、AED操作などについては年間計画に基づいて実施できた。
3. 今後は、各種マニュアルの作成・見直しやKYT(危険予知訓練)などにも取り組みたい。

V. 職員研修関係

1. 介護福祉士等の資格所得者はいなかったが、今後も職員の資質向上、自己研鑽のための資格取得に向けての支援は継続していく。
2. 施設外研修は新型コロナウイルス感染症の影響により Web（オンライン、オンデマンド）研修となることがほとんどであったが、各職員の経験年数や職種に応じた研修会に参加することができた。
3. 令和3年3月開催「高齢者等における感染やクラスター発生時の対応（厚生労働省）」や令和4年1月開催「新型コロナウイルス感染症への対策について（宮崎県社会就労センター協議会）」など感染症対策・感染症発生後の対応に関する研修会に参加することで、自事業所で発生した場合のシミュレーションや1月の新型コロナ陽性者発生後の対応及び振り返りに役立った。

VI. 地域貢献活動及び行事関係

やじろべえ祭や中学校の職場体験学習の受入れ、地域の諸行事（祭り大塚など）などすべてが中止となったが、地域貢献活動の一環として行っている地域清掃活動（年2回）と行事食（焼肉会・クリスマス会・芋煮会）は予定どおり実施した。

VII. 決算状況（別添決算書参照）

令和3年度 障害者支援施設 翼 事業報告書(案)

I 事業の概要

1. 権利擁護

職員の意識向上を図るため、障害者虐待防止・権利擁護研修を実施する等の取り組みを行った。また、障害者虐待防止の更なる推進のため、ヒューマンライツ委員会を中心として「ほっとすてーしょん翼 虐待防止のための指針」「ほっとすてーしょん翼 身体拘束等適正化のための指針」を作成した。

2. 高齢化・重度化する利用者への支援

利用者の高齢化・重度化に伴い、見守り業務を含めより手厚い介護が必要な利用者が増えている。そのため、「障がい福祉分野ロボット等導入支援事業補助金」を活用して見守りロボットの導入を行い、利用者の安心感及び職員の業務負担軽減を図り働きやすい環境整備を行った。

II 事業の状況

1. 入所

(1) 事業実績

		令和元年度	令和2年度	令和3年度
利用者定員		32名	32名	32名
登録利用者数		—	—	—
開所 日数	生活介護	262日	261日	261日
	施設入所支援	366日	365日	365日
一日平均利用者数		31.5名	31.4名	31.4名
利用者 延べ人数	生活介護	8,240名	8,195名	8,189名
	施設入所支援	11,494名	11,454名	11,445名
介護給付費収入 (利用者負担を含む)		203,423,068円	203,264,839円	207,413,983円

(2) 事業成果と課題

① 成果

- ア. 入退所状況では退所者はいなかった。
- イ. 利用実績では、1日平均利用者数31.4名。
- ウ. 介護給付費収入は、約410万円の増収となり、前年比102%となった。要因としては、報酬改定により新設された加算を取得したこと等があげられる。
- エ. コロナ禍でCS(利用者満足度)を高めるため、県の警報等に応じて外出、外泊を再開した。これにより、約2年ぶりに年末・年始をご自宅で過ごされた利用者もいた。
- オ. 業務改善の一環として、ノーリフトケアの推進を図ってきた。スライディングボードやスマイルシートの活用が定着してきており、利用者・職員の負担軽減、リスク回避にもつながっている。

②課題

- ア. 延べ入院日数が前年比で 6 日増となっており、年々増加傾向にある。入院日数を減らすために日頃から利用者の健康管理に努め、基本的な介護技術の見直しや誤嚥予防・口腔ケアの徹底・研修を行い、予防に努めたい。
- イ. 医療的ケアが必要な利用者（鼻マスク 1 名、酸素吸入 1 名）が増加した。利用者が安心して生活できる体制づくりや職員のスキルアップを目指し、登録特定行為事業者（第 3 号研修）の登録・喀痰吸引の研修を実施していきたい。
- ウ. サービスの標準化を図るため、業務管理委員会を中心に介護マニュアル、コミュニケーションマニュアルの職員への周知・徹底を図っていく。
- エ. コロナ禍であっても、利用者のストレス軽減を図るための対策を実施する。

2. 短期入所

(1) 事業実績

	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
利用者定員	3 名	3 名	3 名
登録利用者数	14 名	10 名	13 名
開所日数	365 日	365 日	365 日
一日平均利用者数	0.6 名	0.3 名	0.3 名
利用者延べ人数	235 名	110 名	122 名
介護給付費収入 (利用者負担を含む)	2,399,900 円	989,020 円	1,006,982 円

(2) 事業成果と課題

①成果

- ア. 新規利用者 3 名と契約し、登録利用者数は増加した。
- イ. 利用実績では、利用者延べ人数は増加したが、一日平均利用者数及び介護給付費収入は前年と比べてほぼ横ばいであった。
- ウ. 新型コロナウイルス感染症感染拡大に伴い、利用を控えられた利用者もいた。

②課題

- ア. 相談支援事業所等との連携を図りながら、新規利用者の確保に努める。
- イ. 新型コロナウイルス感染症対策を講じながら、登録利用者への定期利用への働きかけを行う。
- ウ. ご家族や相談支援事業所より、短期入所と併せて日中一時支援事業（特に児童）の利用に関する問い合わせが多くなってきている。学齢期の児童及び保護者とのつながりを持ち、卒業後の利用者確保につなげるためにも、受け入れ体制等を検討する必要がある。

Ⅲ 感染対策

- 1. 全国的に新型コロナウイルスの流行が見られたが、入所においては利用者、職員ともに罹患

された方はいなかった。

2. 「翼における新型コロナウイルス感染症等予防対策とニーズ対応のめやす」を作成・見直しを行い、県の警報等の区分に応じた対応を実施した。
3. 県・県社協共催の研修へ参加し、復命研修として個人防護具の着脱訓練等を実施した。
4. 宮崎県や宮崎市の要請を受けて、職員を対象とした PCR 検査及び抗原検査を受検した。

IV 非常災害対策

火災を始めとする様々な災害を想定した訓練、BCP（事業継続計画）に沿った訓練・研修を実施した。また、利用者と一緒に風水害についての研修及び避難ルートの確認を行い、防災意識の向上を図ることができた。

月	内容	月	内容
6月	・防火訓練(昼間想定)	11月	・防災研修 (自然災害発生・避難所について)
7月	・防災訓練・研修(風水害) ・防犯研修	12月	・防災訓練(地震想定) 利用者と避難所へのルート確認
9月	・防火訓練(夜間想定)		

V 職員研修関係

1. 委員会を中心として、障がい者虐待防止・権利擁護研修、基本的な介護技術を見直すための研修や新人・中堅職員を対象とした階層別研修、事例研究などの研修を行った。
2. 施設外研修は新型コロナウイルス感染症の影響により延期、Web（オンライン・オンデマンド研修）となることがほとんどであった。
3. 職員の資質向上、自己研鑽のための資格取得に向けての研修への参加については勤務調整など配慮した。

月	内容	月	内容
7月	・九州障害者支援施設協議会 施設長・リーダー職員研修	12月	・宮崎県障害者支援施設職員研修会 ・障がい者虐待防止・権利擁護研修
8月	・相談支援従事者研修・サビ管研修	2月	・事例検討会 ・障がい者虐待防止・権利擁護研修 ・九州障害者支援施設研究大会
9月	・階層別研修(新人・中堅職員)	3月	・障がい者虐待防止・権利擁護研修 (復命研修)
11月	・障がい児者・入所施設 新型コロナ ウイルス感染対策研修 ・介護技術(オムツ交換) ・九州障害者支援施設協議会 サービス提供職員研修	通年	・宮崎県社会福祉協議会 社会福祉事業等従事者研修

VI 行事関係

月	日	内容	月	日	内容
4月	7日	いちご狩り、バナナ狩り	9月	29日	バイクング
				30日	ミニ運動会
	14日 21日 28日	フラワーフェスタ (ドライブ、DVD鑑賞 等)	10月	6日	コスモスドライブ (フローランテ宮崎)
		9日 20日			
5月	19日	焼肉会	11月	15日	お寿司実演(海舟寿し)
6月	21日	お好み焼き会(ロビン)	12月	22日	クリスマス会
7月	14日	ラーメン実演(風来軒)	1月	2日	初詣ドライブ
				3日 4日	
	19日	かき氷パーティー	2月	16日	おやつバイクング
8月	27日	ミニ納涼祭	3月	9日	餃子パーティー
				23日	お花見会

VII 決算状況(別紙決算書参照)

令和3年度 さくら館 事業報告書(案)

I. 概要

1. 生活介護事業の介護収入は、大幅に減収となった。昨年度を上回った月は、4月と9月であり、コロナが沈静化した時期とほぼ同じで、その影響が明るみ(鮮明)になった。居宅介護事業の介護収入は、介護保険(訪問介護)での減収があったが、ほぼ昨年度と同じ推移であった。生活介護、居宅介護とも前年を下回り、給付費収入合計が令和2年度比 3.3%の減となる見込みである。
2. 施設内の書庫を大規模に改装し、喫茶店『スタダカフェ』をオープンし、屋外にもオーニングを設置し、利用者のくつろぎの場を設けた。また、建築基準法の大規模改装には該当せず、12月15日に、消防の立ち入り検査を受け、指摘事項なしであった。
3. 常勤職員の平均年休取得が 7.1 日となった。祝日営業の振替休日に加えて、居宅介護での振替休日の増加により取得率が下がったと分析される。労働環境にも配慮しつつ、兼務派遣業務遂行に務めたい。

II. 事業の状況

1. 生活介護事業

(1) 事業実績

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
利用定員	20名	20名	20名
登録利用者数	35名	35名	37名
開所日数	253日	259日	251日
一日平均利用者数	23.2名	23.9名	23.3名
利用者延べ人数	5,879名	6,196名	5,842名
介護給付費収入	100,217,920円	107,848,095円	103,895,510円

※特定処遇改善加算 令和元年10月給付

2. 事業の成果と課題

- (1) 施設入所された方が1名(大山様)、新型コロナによる長期欠席後退所された方が1名(永野歩様)の2名が退所し、新規契約利用者が3名(東別府様・桐野様・中原様)であった。年間の利用者受け入数は、354名減5,842人、前年度比8日減の営業日数だった。コロナ関連での休館や利用控えが大きく影響した結果となった。
- (2) 年間12日間の祝日営業を行い、延べ209名の受け入れが出来た。
- (3) コロナの影響で、ほとんどの園外活動が中止や縮小となり、代替での園内活動となり、唯一、園外活動に出掛けたのは、7月15日に計画した青島散策の1回だけであった。そのような中、8月にはさくら館西側を改装し『カフェスタダ』をオープンした。コーヒーやお菓子の提供をし、くつろぎの場として利用してもらえた。
- (4) 5つの委員会(サービス向上・虐待防止・医療連携・給食・送迎)の定期的な会議や報告などで、サービスの向上や事故防止が出来た。特に、送迎委員会で取り組んだ、さくら ZERO 戦隊として、(送迎忘れ・きずへこみ報告漏れ・交通事故・利用者や外部からのクレーム)の0を達成する事が出来た。

- (5) 医療行為（経管栄養、インスリン、胃ろう、褥瘡処置、与薬）が多くなっている事から、1名の常勤の看護師を追加し、非常勤看護師 2 名を含めた 3 名体制で、医療ケアの充実を図る体制を整えた。
- (6) 生活介護支援員を居宅介護従業者として、常勤兼務とした。複数の職員が早出・遅出・夜勤明け・振替休みなどの勤務形態となる為、日中支援の生活介護の受け入れ体制などの課題が浮き彫りとなった。

Ⅲ. 居宅介護事業

1. 事業の実績

【居宅介護】

	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
登録利用者数	18 名	17 名	13 名
一日平均利用者数	8.83 名	10.04 名	9.48 名
利用者延べ人数(年間)	3,233 名	3,688 名	3,462 名
介護給付費収入	84,142,715 円	99,447,204 円	98,667,790 円

【重度訪問介護】

	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
登録利用者数	2 名	2 名	2 名
一日平均利用者数	1.91 名	2 名	1.95 名
利用者延べ人数(年間)	702 名	730 名	715 名
介護給付費収入	21,840,230 円	22,594,740 円	23,388,840 円

【外出介護】

	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
登録利用者数	19 名	18 名	14 名
一日平均利用者数	1.39 名	1.19 名	1.14 名
利用者延べ人数(年間)	510 名	436 名	419 名
介護給付費収入	2,949,934 円	2,536,948 円	2,467,444 円

【同行援護】

	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度
登録利用者数	1 名	1 名	1 名
一日平均利用者数	0.06 名	0.10 名	0.16 名
利用者延べ人数(年間)	24 名	38 名	60 名
介護給付費収入	167,590 円	273,310 円	465,000 円

【訪問介護】

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
登録利用者数	2名	3名	3名
一日平均利用者数	1.93名	2.43名	1.99名
利用者延べ人数(年間)	709名	889名	729名
介護給付費収入	4,000,401円	5,220,096円	4,240,505円

【居宅介護総合】

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
利用者延べ人数(年間)	5,178名	5,781名	5,385名
介護給付費収入	113,100,870円	130,072,298円	129,229,579円

2. 事業の成果と課題

- (1) シェアハウスあさがおが3年目を迎えた。くろーばー、ひまわりの3つのシェアハウスが年間を通じて初めて、入居率100%になった。
- (2) 新規シェアハウスの建築計画から、令和4年1月17日の入札を経て、2月14日に株式会社小園工務店と本契約を締結する。シェアハウスひまわりは、平成25年11月オープンから8年6ヶ月を経過している。今後、女性利用者向けのシェアハウスとして(1名増員の4名定員)とて、7月にオープン予定である。
- (3) 専任の登録ヘルパーの採用が1名だった。求人での問い合わせも0件と人手確保には年々厳しさを増している状況である。
- (4) シェアハウスくろーばーは、大塚台から跡江に拠点を移し、令和4年6月で丸6年を迎える。大塚台からは、通算12年目。跡江に移転してから、利用者の入れ替わりもなく運営できている。利用者間の対人関係が良好である。
- (5) 令和3年度は、くろーばーとひまわり、あさがおの利用者ミーティングが定期的に行えなかった。ニーズ調査や支援のモニタリングにも必要不可欠であるので、連絡ノートやご意見箱など検討していきたい。
- (6) ヘルパーミーティングやシェアハウス支援者会議を定期的に行い、積極的にSNS等も取り入れ、タイムリーな情報の発信、受信、情報の共有に努めた。
- (7) 新規利用者0名、解約者4名あった。
- (8) 訪問介護事業では、利用者の逝去により、1名減の2名になった。
- (9) 在宅での医療的ケアの範囲が広がりつつある。9月には利用者様が急変された。その際、自宅で訪問看護と居宅介護者が連携し、かかりつけ医の指示を受け、救急車を要請し、善仁会に入院することが出来た。その後2週間で無事に退院されている。今後も、かかりつけ医や訪問看護との連携を密に行っていきたい。

Ⅲ. 感染症対策

1. 利用者の状況として、5月8日に、コロナ感染(家族内感染)が1名判明し、10日(月)から13日(木)まで閉館し、その間、全職員のPCR検査と施設内消毒を行った。6名の職員が濃厚接触者となり、2週間の自宅待機を行った。その後、感染拡大することなく14日(金)からの営業再開を果たした。

2. 緊急感染症対策の一貫として、防護服、ゴーグル、フェイスシールド、手袋、マスク（サージカルマスク、N95 マスク）、シューズカバー、消毒液、非接触型体温計など、備蓄しやすく持ち出しができるバッグにセットした。

IV. 年間報告一覧表

1. 行事関係
2. 防災訓練関係
3. 職員研修関係

令和3年度 さくら館行事・イベント関係

4月19日	館内バーベキュー	10月4日 10月21日	芋煮会 運動会
5月18日	バーチャル Zoo ツアー 定食の日(お楽しみメニュー)	11月2日 5/11日	アミュプラザ 半日園外(綾、フローランテ)
6月18日	文化祭	12月17日 12月27日	ラーメン(風来軒) 来館 利用者忘年会、鍋パーティー クリスマスピザ 餅つき(厨房内)
7月15日 7月21日 7月28日	青島散策、堀切峠ドライブ アイスパーティー 丑の日(鰻提供)	令和4年 1月5/6日 1月24日	初詣(宮崎八幡宮) うどん(空海) 来館
8月20日	スイカ割り 夏を楽しむ会(納涼祭中止の為)	2月17日	温泉気分を味わう会 バレンタインプレート
9月15日	音楽会 梨即売会 餃子提供(日本一を目指し)	3月3日 3月17日 3月30日	ひな祭り お茶会、おはぎ提供 さくらさくら花見会(BBQ)

令和3年度 防災訓練関係

4月9日	感染症対策(コロナウイルス等)	10月20日	避難訓練(アスカ防災)
5月9日	コロナ発生の為休館	12月20日	消防機器訓練
6月24日	台風対策講習会(参加型クイズ形式)	1月12日	防災訓練(地震)
7月8日	熱中症対策講話	2月21日	防災クイズ、講話
8月17日	自然災害 DVD 鑑賞	3月7日	ハザードマップ
9月6日	食中毒対策講話		

令和3年度 研修受講状況

8月5日	法人職員研修 車両事故防止のための心がけ
8月23/24日	サービス管理責任者(基礎)研修
9月3日	同行援護従事者養成研修
9月14日	交通安全講習
9月17/24日	同行援護従事者養成研修
10月3/8	同行援護従事者養成研修
10月8日	法人研修 人権研修
10月8日	安全運転管理者等講習
10月11/12日	サービス管理責任者(基礎)研修
10月14日	法人全体研修
10月19/20日	相談支援従事者現任研修
11月10日	相談支援従事者現任研修
11月11日	東京国際福祉機器展
令和4年 3月8/9日	苦情解決セミナー

VI. 決算状況(別添決算書参照)

天領の杜・ひらり事業報告書(案)

I. 事業の概要

- ① 令和3年12月に居宅介護事業所天領の杜を綾外科跡地へ移転し「ひらり」に名称を変更した。
- ② 感染症対策を行い、利用者、職員、ヘルパーの感染者を出すことなく、営業を続けることが出来た。

II. 事業の状況

1. 生活介護事業(天領の杜)

(1) 事業実績

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
利用者定員	20名	20名	20名
登録利用者数	21名	24名	24名
開所日数	262日	263日	263日
一日平均利用者数	14.6名	15.9名	15.9名
利用者延べ人数	3,838名	4,196名	4,197名
介護給付費収入(利用者負担含む)	58,071,740円	63,646,690円	63,304,670円

(2) 事業成果と課題

- ① 新規利用者4名を獲得することが出来たが5名の退所者がいた為、登録利用者数は増えなかった。
- ② 感染対策に努めながらの園外活動やイベントの実施や園内で楽しんでいただける活動を実施した事で、利用者の方々が喜んで参加することが出来た。
- ③ 新型コロナのウイルス感染症の影響もあり、地域との交流が出来なかった。祭りのイベント等もなく交流の場が設けられなかった。
- ④ 支援学校からの見学、実習の申し込みが1件もなかった。アピール不足もあると思われるので、ホームページ等で情報発信をしていきたい。

2. 居宅介護等事業(ひらり)

(1) 事業実績

・居宅介護

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
登録利用者数	12名	10名	11名
一日平均利用者数	10.8名	11.3名	10.4名
利用者延べ人数	3,954名	4,132名	3,811名
介護給付費収入(利用者負担含む)	99,310,580円	94,279,090円	83,252,610円

・重度訪問介護

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
登録利用者数	1名	2名	2名
一日平均利用者数	1名	1.5名	2名
利用者延べ人数	365名	577名	730名
介護給付費収入(利用者負担含む)	12,221,670円	18,135,960円	23,410,320円

・訪問介護

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
登録利用者数	11名	10名	9名
一日平均利用者数	8.1名	8.5名	8.1名
利用者延べ人数	2,957名	3,342名	2,957名
介護給付費収入(利用者負担含む)	21,275,610円	20,435,510円	19,275,550円

・外出介護

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
登録利用者数	15名	14名	14名
一日平均利用者数	2.4名	2.1名	1.8名
利用者延べ人数	897名	782名	670名
介護給付費収入(利用者負担含む)	5,002,570円	3,434,540円	2,695,360円

(2) 事業成果と課題

- ・ 居宅介護事業所を綾町に移転したことにより、同敷地内減算が無くなり、1ヶ月で居宅介護が700,000円～750,000円、訪問介護が約200,000円の増収となった。
- ・ 新規ヘルパーの確保は出来なかったが、兼務職員による派遣で利用者支援を行うことが出来た。
- ・ 外出介護については、新型コロナウイルス感染症の影響で外出の制限を行った月もあり、減収となった。

3. 福祉ホーム(天領の杜・喜楽家)

(1) 事業実績

- ① 2月～5月まで空床あったが、6月より満床となった。

(2) 事業成果と課題

- ① 感染者ゼロで1年過ごすことが出来た。また、入院者も1名のみで、長期間ではなかった。退院後の支援についてもヘルパー、職員が統一した支援が出来るよう、工夫し、在宅での生活継続が可能となった。

4. 有料老人ホーム(みんなの家ともしび)

(1) 事業実績と成果

- ① 2部屋が空床の状態が続いているが、満床にすることが出来なかった。1名、入居の手続

きをしているが、コロナの感染状況が悪化しており、手続きが進んでいない状態である。

- ② 朝、夕のバイタルチェックを行い、健康管理に努めた。また、嚥下機能の低下した入居者に対し、ミキサー食の提供を行う事でスムーズな食事摂取が出来るよう食事の見直しを行った。
- ③ 外部のデイサービス利用以外の日中の活動時間をつくり、創作活動や口腔体操など実施し生活の質の向上に努めた。

Ⅲ. 感染対策

- ・ 朝、夕の消毒の徹底を行った。
- ・ 抗原検査キットを準備し熱発時に使用した。
- ・ 県より有料老人ホーム職員に対しての検査キットの配布があり、毎週検査を実施した。

Ⅳ. 非常災害対策

- ・ 「ひらり」を避難所とし、災害に備えての備蓄を行った。
- ・ 台風、大雨警報時の避難計画をその都度作成し、避難に備えた。

Ⅴ. 職員研修関係

- ・ 県社協の研修については、ZOOM での研修に参加することが出来た。
- ・ 虐待防止・権利擁護研修にも参加し、施設内研修を実施した。

Ⅵ. 行事関係

4月		10月	運動会・酒泉の杜外食
5月		11月	西都原公園・音楽鑑賞会
6月		12月	クリスマス会
7月	納涼祭・酒泉の杜外食	1月	初詣・酒泉の杜外食
8月	焼肉会	2月	焼き魚会
9月		3月	お花見(馬事公苑)

Ⅶ. 決算状況(別添決算書参照)

相談サポートまほろば事業報告書(案)

I. 事業の概要

相談支援契約者数は、前年度217名から232名まで増えたが、介護保険サービスへの移行者もあり、一時期減少したが再び増加し、現在は微増の234名の登録者数となっている。更新件数は、施設入所者の更新年でない方が多く、減少したが、その分モニタリング回数が増えて給付費は前年の6%増となっている。

平成30年から給付開始された「サービス提供時モニタリング」に加え、令和3年4月から新たな加算「集中支援加算」が新設された。この加算は、これまで実際に行ってきた支援活動に給付されるものであり、今後、請求・記録漏れのないように注意していく。

宮崎市障がい者基幹相談支援センターからの相談依頼も昨年度に引き続き多く、児の相談も基幹センターである「おおぞら」からの3名の依頼を受けている。基幹センターとの連携もできており、機能強化型事業所としての役割も果たすことができている。

新たな取り組みとして、利用者の満足度向上し、相談支援への満足度を確認することができるよう、全利用者の計画書に「相談支援」の支援項目を計画更新時に順次加えていくこととしている。また、独居されている障がい者等、災害時に特に支援が必要な利用者については、支援項目に災害対策の支援項目を加え、担当者会議には民生委員や福祉協力員等の地域の方々にも参加をお願いし、地域との連携強化を図っていく。

II. 事業の状況

1 事業実績

	令和元年度	令和2年度	令和3年度	対前年比
登録者人数	214	217	234	107%
利用者延べ人数	598	871	1002	115%
計画作成件数	161	222	192	86%
モニタリング件数	352	438	531	121%
サービス提供時モニタリング件数	85	209	214	102%
給付費	7,757,720 円	11,710,200 円	12,447,680 円	106%

2 事業成果と課題

給付費は、この数年毎年増加してきているが、増加の割合は鈍化してきている。今後は、質と量のバランスを見極めながら、契約者数の確保と相談の質の向上を図っていく必要がある。

III. 感染対策

当事業は、他の事業所や個人宅を訪問して行う事業であるので、感染対策には万全を期して行っていく必要がある。今後も法人事務局が奨励する対応を適切に遵守し感染対策を行っていく。

IV. 非常災害対策

相談支援事業所の独自の避難訓練等の実施はなく、地域支援局が実施する避難訓練や人命救助訓練に参加している。

V. 職員研修

宮崎市障がい者基幹相談支援センターや、自立支援協議会の各部会が開催する各種研修会へ参加している。

VI. 自立生活援助事業について

昨年度に引き続き、3名の利用者への支援を継続している。内2名が利用1年が経過し5%の減算となったが、今後も利用者が地域で安心して自立した生活ができるように支援を継続していきたい。

VII. 決算状況(別添決算書参照)

令和 3 年度地域支援局事業報告書（案）

I 事業の概要

- 1 部署間・職種間の協力、連携体制を高めていく取り組みを行ってきたが、職員の意識も高まり、通所、居宅それぞれ効率性が向上している。連携により情報の共有も図られ、効果的な利用者支援を行う体制が整いつつある。より連携を強化し、利用者の生活の質の向上、職員の労働環境の充実に努めていきたい。
- 2 宮崎市の実地指導を受検した。契約書、重要事項説明書、運営規程に異なる記載があり、整合性を図るよう助言を受け、書類の見直しを行い整備した。
- 3 入所と合同で「ほっとすてーしょん翼虐待防止のための指針」「ほっとすてーしょん翼身体拘束等適正化のための指針」を作成した。また、身体拘束等の適正化の取り組みとして、個々のケアプランの見直し、日誌への細かい記録の徹底を図ってきた。
- 4 今年度もコロナの影響により外出の機会が少なかった。その中で、新しい活動として月に1回から2回、生け花に取り組んだ。綺麗な花を飾ることで、より明るい雰囲気を作り出すことができた。また、誕生日にはケーキと写真をプレゼントし、利用者の方も喜んでおられた。

II 事業の状況

I 生活介護、地域密着型通所介護

(1) 事業実績

【生活介護】

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
利用者定員	20名	20名	20名
登録利用者数	30名	34名	36名
開所日数	265日	270日	259日
一日平均利用者数	17.8名	19.5名	19.1名
利用者延べ人数	4,733名	5,273名	4,962名
介護給付費収入	75,339,350円	83,839,060円	78,473,470円

【地域密着型通所介護】

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
利用者定員	10名	10名	10名
登録利用者数	9名	8名	8名
開所日数	251日	260日	248日
一日平均利用者数	6.3名	5.8名	5.6名
利用者延べ人数	1,583名	1,507名	1,391名
介護給付費収入	8,525,854円	7,938,276円	7,568,350円

【通所総合】

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
一日平均利用者数	23.8名	25.1名	24.5名
利用者延べ人数	6,316名	6,780名	6,353名
介護給付費収入	83,865,204円	91,777,336円	86,041,820円

(2) 事業成果と課題

- ① 令和3年度は、2名の方が退所された。退所理由は、1名はご家族の高齢に伴う施設入所、1名は他事業所への変更により退所された。後者の方については、支援学校卒業後すぐに利用を開始したが、活動内容等、ご本人の満足いくサービス提供に至らず、若年層利用者への魅力あるサービスメニューの工夫が必要だと痛感した。新規利用者を2名受け入れたが、入院や体調不良による長期欠席者等が3名おられ、前年度より平均利用者数は減少した。
- ② 特別支援学校の見学は保護者のみを含め3件あった。今後も、実習及び見学を積極的に受け入れ、その中でしっかりとニーズを把握し、サービス内容の検討をしていきたい。
- ③ 地域密着型通所介護は、介護保険への新規移行者がいなかったこともあり、前年並みの数字となった。

2 居宅介護、訪問介護、BE・FREE、Be Fine

(1) 事業実績

【居宅介護】

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
登録利用者数	23名	21名	20名
一日平均利用者数	16.8名	18.2名	16.7名
利用者延べ人数	6,155名	6,657名	6,116名
介護給付費収入	91,869,959円	102,495,336円	93,868,360円

【重度訪問介護】

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
登録利用者数	3名	3名	4名
一日平均利用者数	2.6名	2.5名	2.7名
利用者延べ人数	966名	945名	1,016名
介護給付費収入	25,670,110円	22,430,150円	26,236,840円

【同行援護】

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
登録利用者数	3名	2名	2名
一日平均利用者数	0.4名	0.5名	0.5名

利用者延べ人数	171名	186名	192名
介護給付費収入	1,057,770円	1,222,310円	1,217,390円

【外出介護】

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
登録利用者数	21名	20名	19名
一日平均利用者数	0.9名	0.7名	0.8名
利用者延べ人数	333名	265名	322名
介護給付費収入	2,598,480円	1,633,160円	1,834,340円

【訪問介護】

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
登録利用者数	11名	12名	12名
一日平均利用者数	8.9名	10.1名	9.2名
利用者延べ人数	3,267名	3,697名	3,372名
介護給付費収入	19,086,455円	21,525,800円	19,900,102円

【居宅総合】

	令和元年度	令和2年度	令和3年度
利用者延べ人数	10,892名	11,750名	11,018名
介護給付費収入	140,282,774円	149,306,756円	143,057,032円

(2) 事業成果と課題

- ① 居宅介護は、利用者の退所等により減収となった。
- ② 重度訪問介護は、延べ人数の増と特定事業所加算がⅡからⅠに変更したことにより増収となった。
- ③ BE・FREEは5月に1名退所（死去）になり、その後新規入所者の調整を行ってきたが、20代の入居希望者にご家族を含め見学して頂いたが、当面は家族での在宅生活を希望され、入居には至らなかった。
- ④ Be Fineは市外から入居を希望されていた方（ご夫婦）が、3月に入居された。

Ⅲ 感染症対策

- 1月に職員1名が罹患し、利用者4名、職員4名が濃厚接触者、利用者2名が健康観察の対象となった。その間、消毒、換気等感染予防を徹底し、感染を防ぐことができた。今後もより一層、感染予防対策の徹底を図っていく。また、居住系の他事業所との連携、連絡を密にしていくことの重要性を改めて感じた。本人や他の利用者の発熱の有無などの情報から、少しでも感染リスクを抑える予防策を徹底していきたい。

Ⅳ 非常災害対策

- 利用者、職員で防災DVDの視聴を行った。

- 安否 Life メール（職員用災害メール）の使用方法を全職員に周知し、テスト送信を繰り返し行ってきたことで、メールの目的、重要度の理解を高めることができた。

V 職員研修関係

- 内部研修は、防犯研修、階層別研修、感染症対策研修を実施した。また、職員会議の中で、地域支援局で実施する事業の人員、設備、報酬基準の研修も実施した。
- 外部研修は、Web での研修参加を行った。

VI 行事関係

4月	焼肉会	10月	コスモスドライブ
5月	焼肉会、風船バレー大会	11月	
6月	お好み焼きテイクアウト プチ納涼祭	12月	クリスマス会 イルミネーションドライブ
7月		1月	初詣ドライブ
8月		2月	
9月		3月	餃子パーティー

VII 決算状況（別添決算書参照）